特定非営利活動法人
日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス

2013年度　活動報告書

〒169-0073 東京都新宿区百人町 1-21-12-103
電話：03-5937-4040　　FAX：03-5937-4043
WEB ： http://www.janpplus.jp　　E-mail ： info@janpplus.jp

も　く　じ

代表あいさつ　・・・・・・・・　2

JaNP+の活動目的とミッション　・・・・・・・・　3

HIV 陽性者スピーカー派遣　・・・・・・・・　5

HIV 陽性者交流会　・・・・・・・・　11

Talking about SEX　・・・・・・・・　12

研修　・・・・・・・・　13

調査・研究　・・・・・・・・　15

日本エイズ学会参加支援スカラシップ　・・・・・・・・　18

国際ネットワーク　・・・・・・・・　21

メディア対応　・・・・・・・・　24

アドボカシー　・・・・・・・・　25

広報・事務局ほか　・・・・・・・・　27

寄付・助成　・・・・・・・・　29

代表あいさつ

今年の米アカデミー賞では、『ダラス・バイヤーズ・クラブ』が主演男優賞をはじめとして 3 部門を受賞しました。1980 年代後半を舞台に、当時まだ開発されて間もなかった抗 HIV 薬を手に入れるために東奔西走する AIDS 患者を描いた映画です。

私が自分の感染を知ったのは、この本が発表された 1992 年。日本では 2 つめの抗 HIV 薬である ddI の治験が始まったばかりの時期でした。当時、CD4 がすでに 150 前後で、いつ発症してもおかしく無い状態だった私も、すぐに AZT を飲み始め、その半年後にやっと国内で認可された ddI に切り替えたものの、治療効果はあわせて 1 年程度で消え去ってしまいました。そんな綱渡りのような状態で 3 年後の 3TC の登場を待ち、97 年のプロテアーゼ阻害薬まで命をつないでいたのです。

その間、病院で知り合った友人達を数多く見送りました。感染経路も、性別も、セクシュアリティも、国籍も、社会的な立場も関係なく、実に平等に死が訪れました。あの時代、生死を分けたのは、発症時期や検査機会に恵まれる等、わずかな幸運の差でしかありませんでした。

いま、私たちは死の影におびえる必要はなくなりました。HIV 陽性者の寿命も非陽性者とそれほど大きくは変わらないとも言われています。

しかし、私たちが生きている社会やコミュニティで自分の HIV 感染の事実を伝えることや、さまざまなサポートを得ることについては、簡単になったかというと、そうではありません。HIV にまつわる偏見や陽性者への差別も、いまだ社会に根強く残っています。

とりわけ、私たちが最も支援を必要とする医療の世界では顕著です。歯科診療、透析治療、出産等々、HIV 感染症が致死的な病でなくなったいっぽうで、一般診療の機会も増えてきました。現代の HIV 陽性者が必要とする医療は、「ダラス・バイヤーズ・クラブ」の時代のような生き残るための治療ではありません。あたりまえに治療をし、あたりまえに生活し、仕事をして、恋をして、セックスをして、結婚をして、笑いながら、泣きながら生きていく…そんなあたりまえの生活を求めているにすぎません。

そんなあたりまえの社会が実現するまで、JaNP+の活動は続きます。今後とも、JaNP+へのご参加、ご支援をよろしくお願いします。

HIV 陽性者があたりまえに生きる社会が実現できるまで。

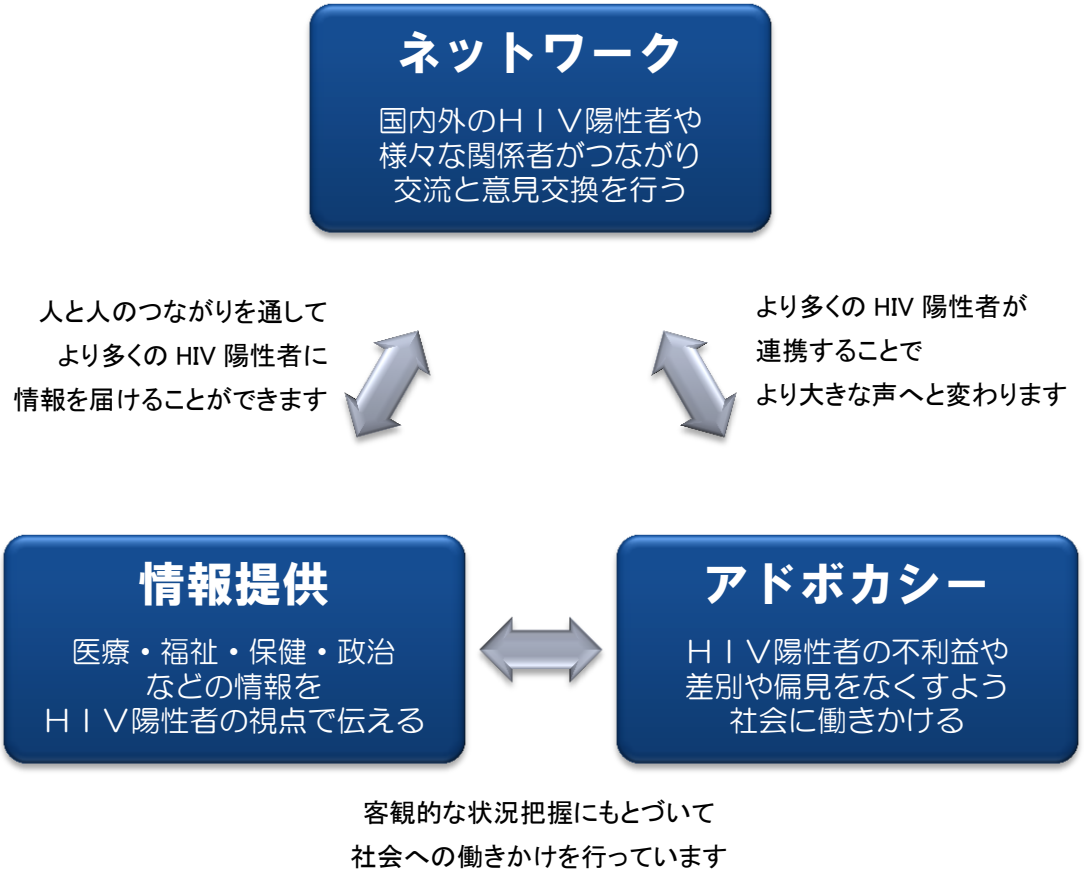
特定非営利活動法人日本 HIV 陽性者ネットワーク・ジャンププラス
代表理事　　長谷川　博史

活動目的とミッション

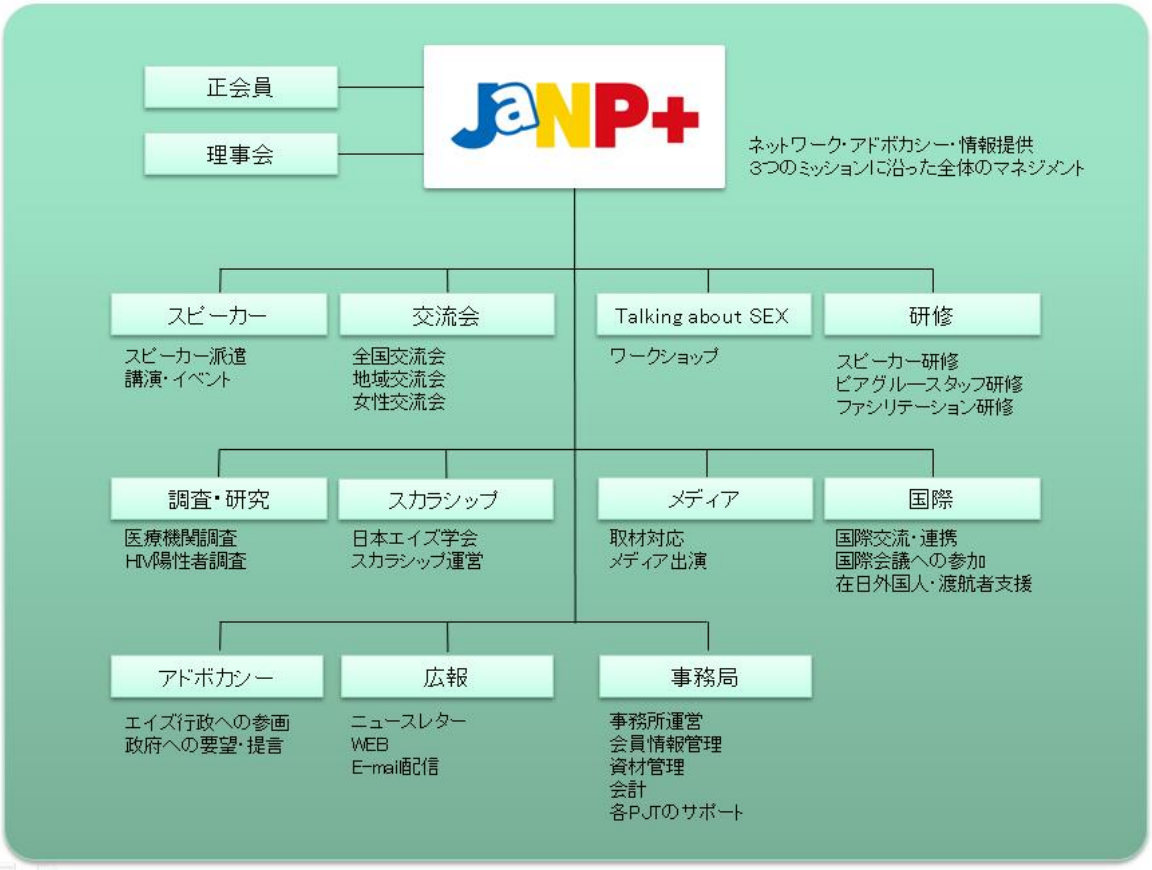
JaNP＋の活動目的

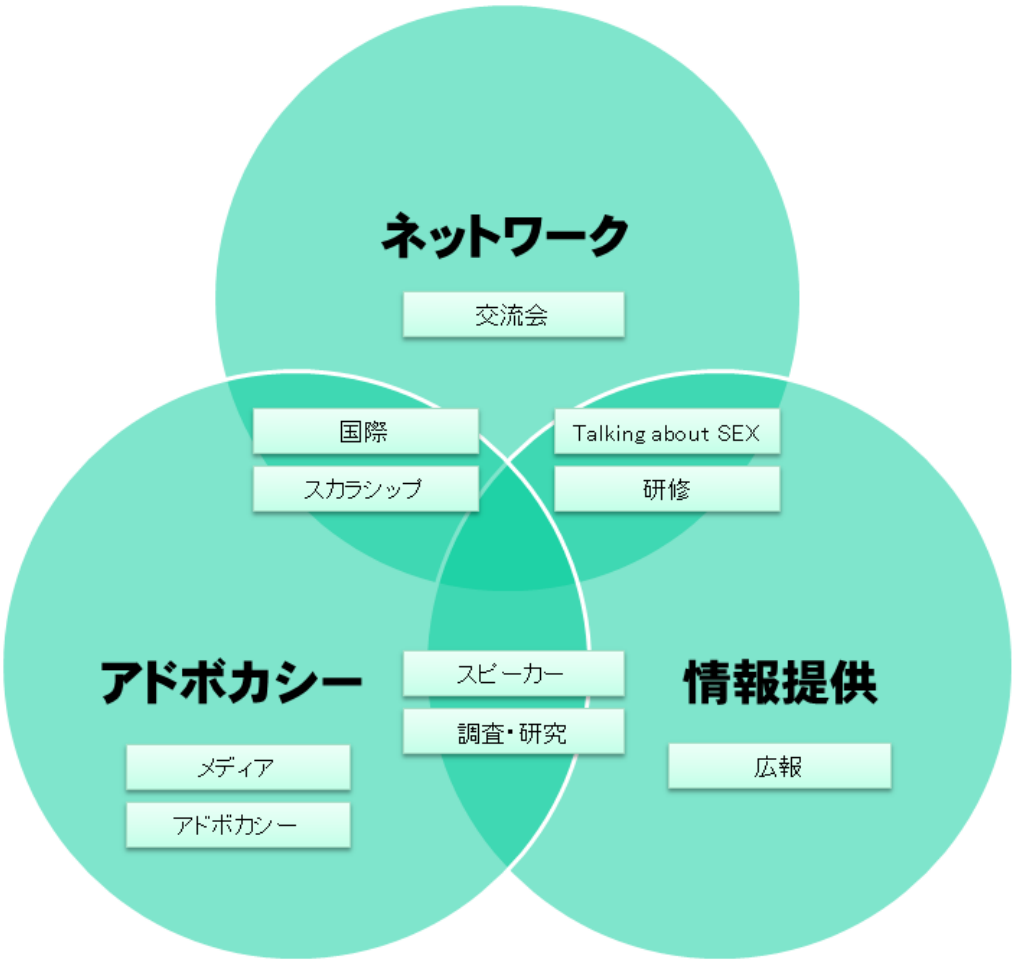
HIV陽性者が秘密を抱えることもなく、社会的な不利益を受けることもなく、
HIV陽性者として、自立したあたりまえの生活ができる社会を目指します。

JaNP＋の3つのミッション



各プロジェクトとミッションの位置づけ





HIV陽性者スピーカー派遣

HIV・エイズに対するイメージから、HIV 陽性者が自分の感染の事実を周囲の人に伝えることには困難が伴います。その一方で、HIV 陽性者が「顔のある一人の生活者」として認知される機会がなければ、HIV は多くの人にとって「他人事」のままであり、その結果としてイメージのギャップから生まれる差別や偏見は、いつまでも解消されない、そんな悪循環が続いてしまうでしょう。

多くの HIV 陽性者が、自分のできる範囲で身近な人たちに HIV 陽性であることを伝えています。それによって、伝えられた人は初めて HIV を「身近な問題」として認識しています。それと同時に、HIV 陽性者がいきいきと自分らしく暮らしている姿そのものが、こうした悪循環を断ち切る１つの力にもなっているのです。

こうした小さなカミングアウトを大きくネットワークすることで、リアリティを広げていく取り組みが、HIV 陽性者スピーカー派遣です。自身が HIV 陽性者であることをオープンにできる人は決して多くありませんが、JaNP+のスピーカーは、テレビや新聞などのメディアだけでなく、講演会や研修、少人数の集まりなど全国各地の様々な機会に、「等身大」の語りを提供していいます。

2013年度　派遣実績

2013 年度は、計 34 件の派遣依頼に応じ、8 名の HIV 陽性者スピーカーが担当しました。

＜依頼主の属性＞　（件）

NGO、NPO	8
医療機関	4
企業	2
教育機関	5
行政	12
メディア	3

＜聴講者の述べ人数＞

2,453 名　（メディアは除く）

＜地域＞　（件）

東京	11
神奈川	4
群馬	2
大阪	2
沖縄	2
新潟	1
山梨	1
千葉	1
埼玉	1
静岡	1
京都	1
兵庫	1
広島	1
香川	1
熊本	1
（メディア）	3

＜聴講者の属性＞　（件／重複あり）

医療職	11
保健所職員	10
心理職	5
行政職員	11
NGO、NPO	5
学生	9
教員	9
HIV 陽性者	2
一般市民、その他	17

＜派遣実績詳細＞

日付	依頼主体	催事名
5 月 6 日	JaNP+、NPO 法人ぷれいす東京	HIV とカミングアウト
5 月 31 日	特定非営利活動法人シェア＝国際保健協力市民の会	ＪＩＣＡ青年海外協力隊 エイズ対策集合研修
6 月 3 日	放送大学	千葉県立保健医療大学２年生 「感染看護学」授業
7 月 26 日	公益財団法人エイズ予防財団	HIV／エイズ基礎研修会
8 月 3 日	神奈川県保健福祉局 保健医療部健康危機管理課	AIDS 文化フォーラム in 横浜
8 月 10 日	LGBTYouthJapan	LGBTYouthJapan 研修
9 月 1 日	ハートエナジー	ハートエナジー
9 月 8 日	こわれ者の祭典	こわれ者の祭典
9 月 9 日	独立行政法人国立病院機構大阪医療センター	平成 25 年度 HIV/AIDSＳ看護師研修 初心者コース
9 月 19 日	アッヴィ合同会社	社内会議
9 月 20 日	神奈川県私立中学高等学校協会 保健体育科専門委員会	神奈川県私立中学高等学校協会 保健体育科専門委員会
9 月 25 日	群馬県立高崎商業高校	性・エイズ講演会
10 月 5 日	AIDS 文化フォーラム in 京都	AIDS 文化フォーラム in 京都　全体会
10 月 17 日	東京都 公益財団法人結核予防会	医療従事者向け講習会 「HIV 感染症と透析医療　～HIV 陽性者の透析医療について考える～」
10 月 18 日	静岡県健康福祉部 医療健康局疾病対策課	HIV 検査相談研修会
10 月 19 日	新潟県福祉保健部健康対策課	平成 25 年度北関東・甲信越地区 エイズ治療拠点病院 ソーシャルワーカー連絡会議
10 月 21 日	独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター	平成 25 年度 HIV/AIDS 看護師研修 初心者コース
10 月 24 日	東京都	東京都エイズボランティア講習会

10 月 30 日	国立保健医療科学院	平成 25 年度エイズ対策研修
10 月 31 日	東京都福祉保健局健康安全部感染症対策課	Words of love ～Let's talk about HIV/AIDS～
11 月 21 日	鳥居薬品株式会社	第 27 回日本エイズ学会・ランチョンセミナー
11 月 29 日	呉市保健所　健康増進課	講演会 「自分らしく生きる～HIV とともに～」
12 月 1 日	明治大学　横田ゼミナール Human Library	Human Library
12 月 9 日	山梨県福祉保健部健康増進課	平成 25 年度 エイズ知識普及啓発講習会
12 月 12 日	保土ケ谷区役所	保土ケ谷区職員人権啓発研修
12 月 14 日	Talk & Jazz Live in Takamatsu 実行委員会	Talk & Jazz Live in Takamatsu
1 月 22 日	埼玉県東松山保健所	性感染症研修会
1 月 24 日	NPO 法人 akta	デリバリーボーイズ ボランティア研修会
1 月 25 日	沖縄 HIV 臨床カンファレンス カウンセラー部門	第 5 回沖縄 HIV 臨床カンファレンス
1 月 25 日	沖縄 HIV 臨床カンファレンス	第 5 回沖縄 HIV 臨床カンファレンス
2 月 12 日	東京障害者職業センター	平成 25 年度 第 7 回障害者雇用管理サポート講習会
2 月 12 日	フジテレビ	ニュース JAPAN
2 月 24 日	藤沢市保健所	藤沢市エイズ講演会
4 月 20 日	放送大学	放送大学学部生「ＨＩＶとともに「生きる」とは」（主任講師：井上洋士）の一環

＜スピーチを聴いていただいた方へのアンケートより＞

HIV に一番感染しやすいのはセックスです。初めはニヤニヤして聞いていましたが、ニヤニヤしていてはいけない話だと、時間が過ぎていくたびに気づいていきました。セックスのことを考えることは、自分の人生に考えることになります。

性の話ができる環境づくりが大切だと思いました。性に関する問題が多様化していて、知識不足なことを痛感しました。

同性愛者の割合が 5%位ということに、びっくりしました。同時に、

身近なことであり、子どもの中でいたときにはサポートできるような行動を、普段からしたいと思いました。私たちとしては、どうしても性の問題について考えるとき、異性愛を基準にしてしまいますが、日本の現状を知り、自分自身の見方を変えていなければと思いました。

性行為は決してはしたないものではない、もしそうなら君たちははしたない行為の結果になってしまう、という言葉に僕は深く感銘を受けました。性についてのイメージが変わった気がします。

近寄りがたいイメージが払拭できました。

当事者の話は説得力があった。HIV について、誤解もある部分を、こういった講演会を通じて正しい知識を身につけていくことはとても大切だと思った。参加してよかったと思います。

輸血のニュースを見て、どうして感染している可能性があるのに献血に行ったのかと思いましたが、当事者の話を聞いてみると献血に行った人の気持ちも理解できました。今後、どうしたらよいかを考えました。

私はまったく自分がかかるとは思っていません。今回の話を聞いて、陽性者の方も、まさか自分がかかるとは思っていなかったんだと思いました。

職場で上司に相談すりか迷った話や、感染予防はしっているけど、出来ない話、田舎だと保険の話を役所に行くのをためらってしまう話など、想像したことがない話が多くてとても為になりました。HIV が少し身近な印象になりました。

とても勉強になった講演でした。今まで HIV は私には無関係と思っていて、感染するような行為をとった当事者に責任がありように思っておいて、あまりよいイメージｇあありませんでした。でも講演を聞いて、HIV 陽性者の視点からエイズについて考えてみると、自分のことと置き換えて考えることができ、また違った見方でエイズについての知識を深めることができました。また、周りに HIV 陽性者がいるときに、どう対応したらいいか、具体的に考えることができていい機会になりました。

同性愛者が仲の良い友人にいる。AIDS の話はもちろん知っているし、こういった講演を聴くのもはじめてではなかったのに、何とはなしに、その友人含め、自分も何にも関係ないと考えていた自分に気付いた。セックスをしている以上、全く関係もないとは言えないと初めて思った。HIV 陽性者の方のお話を聞くのは初めてで、知識だけの状態だったところから、本当に、自分の友人・知人のつき合い方と変わりなく HIV 陽性者の方ともつきあえるなあと感じた。

ストレートな表現でわかりやすかったです。日本の雰囲気ではこのような話が聞けないことが多いと感じていたので。

先生の外観・様子から、先生本人が HIV 陽性者であると思いませんでした。HIV 陽性者であっても本人がそれを受け入れ、生活に順応していることが大切だと思うので、悲観する視点ではなく、健常者と同じように、その人を尊重して日常生活を送ることが重要な視点なのだと思う。

公開イベント「HIVとカミングアウト」

2013 年 5 月 6 日、公開イベント「HIV とカミングアウト」を特定非営利活動法人ぷれいす東京との共同で開催しました。112 名の方が来場者され、アンケートでも好評でした。

なお、このイベントは『Tokyo Rainbow Week 2013』に参加しました。

＜開催概要＞

日時	2013 年 5 月 6 日（月・祝）
場所	家の光会館　コンベンションホール　（東京都新宿区）
プログラム	1.HIV 陽性だと打ち明けられたあなたへ カミングアウトを受けた経験をもつ人たちの声をもとに作られた冊子「HIV 陽性だと打ち明けられたあなたへ」についての紹介。当日の来場者には冊子を配布した。 2.医療の現場から見たカミングアウト HIV 陽性者にとって、通院先は自分が HIV 陽性であることを開示して相談できる場所になっている。カミングアウトについて考えている当事者への、医療の現場でサポートについて、名古屋医療センターの看護師・羽柴知恵子さんにお話を伺った。 3.カミングアウト経験を語る HIV 陽性者スピーカー3 名が、「なぜカミングアウトをしようと思ったのか」「伝えることで自分の気持ちや周囲はどのように変化したのか」など、自らのカミングアウトにまつわる経験や考えを語った。 4.映画『The Hope of Love　～愛のみまもり袋～』上映 AIDS 発症により HIV 感染がわかった台湾人のゲイ男性と、その母親を取材したドキュメンタリー映画を上映します。監督は陳正勳さん。

＜来場者アンケートより＞

職場、家族、性関係、それぞれでのカミングアウトのお話で、とてもよくプログラムされていると思いました。スピーチもみなさん説得力があり、「個人の思いや体験」ではありますが、共感しうることがとてもよかったです。

これまで何回かシンポジウムに参加してきましたが、最も良かったと思います。内容が各人が考えることであり、その役割もパネリストの人がしっかりと行っていたからです。

カミングアウトはもろ刃の刃かと思いました。うちの両親はあまりHIV に関して理解していないような気がしています。

「カミングアウト」された側として、とても興味深く聴いていました。する側もそれぞれですし、される側も色々な立場があるということを改めて感じました。する側は言うまでもなく大変な勇気がいると思いますが、される側は聞かされてから始まるのだと映画をみてつくづく思いました。

自分がゲイである以上、今日のトピックになっていた HIV やカミングアウトは切っても切れない問題と考えているが、普段の生活ではあまり考える機会がなかった。今回、友人に誘われて映画を見に来たが、映画以外の陽性の方々のスピーチなど、考えさせられることも多く、とてもよい機会になったと思う。来てよかったと思った。

羽柴さん、当事者の方３名のお話はとても現実的に当事者や周囲の人の事情や感覚を知ることができて、勉強することがたくさんあった。映画は貴重なドキュメンタリーだと思う。お母さんの考え方が重苦しくて、少し抵抗あったけど。同性愛者ではない HIV 感染者の方にも、一時でいいからフォーカスしてほしいと思った。

自分も比較的カミングアウトすることが多く、その理由が全て隠していることへの後ろめたさからの解放でした。隠さないことがえらい！となんて思っていたこともありましたが、ある時同じ病気を持つ友人から、カミングアウトされた人の気持ちを考えたことはあるの？と聞かれました。自分が楽になるために降ろした荷物は、実は別の大事な人に背負わせてしまった…と反省しました。じゅんぺいさんのお話を聞いて、改めてカミングアウトについて考えさせられました。

普段は HIV に関する勉強会のようなものが多いですが、カミングアウトに特化したイベントは少ないように思うので、参加して良かったです。

看護師の方から話を聞く機会が自分にはないので、看護師の方がどのようなことをしているのかを聞くことができて良かったです。支援があると知るとほっとする。

今後に向けて

派遣機会の拡大のために、今後も HIV 陽性者スピーカー派遣活動に関する各方面への広報により一層努めたいと思います。2013 年度はスピーカー派遣の案内チラシや、WEB サイトにおけるスピーカー紹介を予定していましたが、人手不足により実施できませんでしたので、これらの取り組みに着手します。

HIV陽性者交流会

JaNP+の活動の基盤となるのは、HIV 陽性者のネットワークづくりです。しかし、HIV 陽性であることをオープンにしづらい日常の中で、他の陽性者と知り合うことは難しいものです。そのため JaNP+では継続的に HIV 陽性者の交流の場を提供するとともに、全国各地のピアグループ活動を支援しています。

＜開催実績＞

日付	催事名	開催地域	参加者数
5 月 18 日	HIV 陽性者交流会	東京	6 名
7 月 28 日	HIV 陽性者交流会 ※Love Act Fukuoka 共催	福岡	4 名
9 月 14 日	HIV 陽性者交流会 ※NPO 法人レッドリボンさっぽろ共催	北海道	6 名
11 月 20 日	HIV 陽性者交流会	熊本	26 名
12 月 8 日	JaNP+女子会	東京	9 名
12 月 14 日	ジャンプ！交流会	東京	12 名
1 月 11 日	ジャンプ！交流会	東京	5 名
1 月 25 日	HIV 陽性者交流会 ※OHPAM 共催	沖縄	6 名
2 月 16 日	ジャンプ！交流会	東京	14 名
4 月 12 日	ジャンプ！交流会	東京	9 名

※参加者数はスタッフを除く

- HIV 陽性者交流会　　HIV 陽性者限定の交流会
  性別・セクシャリティ・感染経路を問わない
  （7 月の交流会はゲイ・バイセクシャル男性のみ）
- JaNP+女子会　　HIV 陽性の女性限定の交流会
- ジャンプ！交流会　　HIV 陽性者および JaNP+の各種会員による交流会

今後も引き続き、対象・地域・形式などを柔軟に考えながら、また予算やスタッフの負担なども少ない方法で、交流の場をできるだけ継続的に提供していきたいと考えています。

この約一年間のあいだにも、札幌、兵庫、福岡、沖縄で、HIV 陽性者交流会が立ち上げられ、それぞれのスタイルで活動をスタートしています。こうした動きを支援しながら、他の地域でも広げていくための活動に注力していきます。

Talking about SEX

HIV に感染しても、多くの場合は治療によって健康をコントロールし、ウイルスも抑えることができます。また、多くの HIV 陽性者は、感染を予防する方法も知っています。

それでも、HIV 感染という経験によって「セックスや恋愛にどう向き合っていいのかわからない…」という思いを抱いている人は、少なくありません。パートナーシップを築きたいと思える相手とめぐりあったときにも、HIV は大きなハードルになっています。

本来、HIV 陽性であるかどうかに関係なく、人間にとってセックスは生き方にもかかわる大切な問題です。しかし、セックスに正面から向き合って考える機会は、日常生活の中では見つけにくいもの事実です。

このため JaNP+では、HIV 陽性者の立場からセックスについて考えるプログラム「Talking about SEX」を展開しています。

※　このプロジェクトは、セクシュアリティと密接に関連する内容であることから、ゲイ・バイセクシュアルの男性を対象に実施しました。

＜開催実績＞

日付	開催地域	参加者数	プログラム
9 月 21 日	名古屋 ※LIFE 東海共催	4 名	● 歓迎・趣旨説明、グランドルール ● 自己紹介、アイスブレーク ● 連想ゲーム ● セックスのメリットとデメリット ● セックスにともなうリスク ● 振り返り、閉会、アンケート記入
12 月 7 日	東京	7 名	
1 月 26 日	大阪	3 名	
2 月 9 日	東京	3 名	

※参加者数はスタッフを除く

＜参加者へのアンケートから＞

セックスのことは今まで深く考えてなかったですが、これからもっと自分の身を守るセックスをしようと思いました。感染してから「ずっと一人だな」と思っていましたが、この機会を通して、自分は一人じゃないとわかりました。

この病気になって、自分自身「もう SEX をしてはいけない」と思い込んでいました。けれど時がたち、自ら SEX と向き合う機会もでき、他の方はどう考えているだろうと疑問に思っていたことを、話す機会ができて良かったです。

これまで、東京、大阪、愛知の 3 都市で開催してきました。今後も可能な範囲で実施するほか、他の HIV 陽性者グループと連携して実施していくことも検討しています。

また 2014 年度は、このプログラムでのノウハウを活かして、HIV ステータスを問わずゲイ・バイセクシャル男性を対象とするワークショップを開発し、実施する予定です。

研修

JaNP+はその名称のとおり、地域を限定せず日本全国を対象に活動したいと考えています。しかし、日々暮らしている地域において「HIV 陽性者が HIV 陽性者として活動する」ということには、様々なハードルがあります。また、大都市圏以外ではセルフヘルプ活動を行うピアグループが存在しないために、実際の活動に触れたり学んだりする機会がありません。

このため JaNP+では、HIV 陽性者によるセルフヘルプ活動のために必要なノウハウや知識を提供するための独自の研修プログラムを提供しています。

ピアグループスタッフ研修

「他の HIV 陽性者との交流を通じて救われた」という経験のある人は少なくありません。そうした経験から、自身もまた交流の場を提供しよう思う当事者が JaNP+のネットワークにつながっています。

そうした人たちに、ピアグループの立ち上げやスタッフとしての参加に必要となる準備性を確保してもらうため、ピアグループスタッフ研修のプログラムを開発し、2012 年度よりスタートしました。

2 回目となる 2013 年度の研修では、16 名の HIV 陽性者からの応募があり、9 名が受講しました。受講者によるレポートからも、今後のピアグループ活動につながる前向きな評価を得ることができました。

なお、このプログラムは公益財団法人エイズ予防財団の助成を受けて実施しました。

＜開催概要＞

日時	2014 年 8 月 10 日（土）～8 月 11 日（日）
場所	東京都内
参加要件	・ HIV 陽性であること。 ・ 「ピアグループを立ち上げたい」「スタッフとして参加したい」という強い思いがあること。または、すでにスタッフとして参加していること。 ・ HIV 陽性告知から 1 年以上経過していること。 ・ 医療機関に定期的に通院していて、自分の健康状態を把握していること。 ・ 他の陽性者や当事者団体・支援団体とつながりを持っていること。 ・ 研修後に所定のレポートを提出すること。 ・ この研修会のすべてのスケジュールに参加できること。

プログラム	1日目	・ グランドルール
		・ 自己紹介
		・ プライバシーについて
		・ いろいろな人数で話す
		・ 場所について考える
		・ 参加者の動機（ニーズ）を考える
	2日目	・ ピアグループ活動の経験を共有する
		・ 自分たちが持っているもの（シーズ）を整理する
		・ 「こんな時はどうする？」 ～対応例の検討～
		・ 振り返り、レポート記入

＜受講者のレポートから＞

研修プログラムを受講する以前は、スタッフとして活動に関わることはあっても、活動自体の目的や意識などを十分に理解しないまま関わっていた部分があり、アシスタント的な感覚から抜けることがほとんどありませんでした。今回の研修を受けて、まず、ピアグループには様々な形があり、グループの目的や募集の仕方などでやり方も目的も変わっていくものなのだということを理解しました。当事者のニーズであろうテーマやコンセプトを設定したグループをどういう形で立ち上げていけるのか？　継続してグループを開いていけるのか？という具体的な準備やプロセスについても学ぶことができ、自分が今後、何かのピアグループを立ち上げる時に何が必要で、何が足りていないのかを知ることが、今後はできると思います（漠然とした不安や悩みが、研修を通してより明確になりました）。既存の団体で活動に関わっていく際にも、今後はより活動の趣旨を理解した上でスタッフになり、参加者として関わることができると思います。

女性の会ではトラブルは少なく、また起こらないだろうと思う気持ちがあったので、誘われた時は必要かな？と思いつつの参加でした。他人任せなところもおおいにあったので……。実際に受けてみたら、色々な切り口で、色々な立場に立ってみたら見えてくる問題に気づかされ、とても参考になりました。自信がない面がおおかったのですが、皆さんに応援していただいて、心強かったです。休憩中のトークもとても楽しかったです。今後に生かしていけそうな気がしています。

バックグランドの違いを受容することの大切さを認識できました。また、人に関わる活動をするためには、“人を観察する”、”共感、受容する”ことも大事ですが、その前に自分を知り、自己理解しなければとの思いがより強くなりました。

上記のほか、JaNP+では HIV 陽性者スピーカーを育成する研修プログラム「スピーカー研修」を行ってきましたが、2013 年度は予算の都合で実施できませんでした。

今後も、HIV 陽性者としてスピーカーやピアグループ活動を行う人々をサポートできるよう、研修プログラムを提供していきます。

調査・研究

活動の裏付けとなる当事者の声を客観的に把握するためには、調査・研究が必要不可欠です。これまで JaNP+では、独自の調査のほか、研究者や企業が行う調査・研究への協力を行っています。

調査プロジェクト「Futures Japan」への協力

アドボカシー活動には、説得力と客観性のあるエビデンスが必要となります。そのため JaNP+では、HIV 陽性者の「自分らしくより健康的な生活の実現」と「暮らしやすい社会環境づくり」を目的とした当事者参加型のプロジェクト「HIV Futures Japan プロジェクト」に協力しています。

このプロジェクトには、全国から 19 名の HIV 陽性者が参加する「レファレンスグループ」が設置されています。JaNP+は、これまでの活動によって培ったネットワークをもとに、昨年につづきレファレンスグループの運営を担当しました。

2013 年度は WEB アンケート調査を実施しました。質問項目は「健康状態」「通院」「セクシュアルヘルス」「アディクション（依存症）」「子どもをもつこと」「周囲の人々や社会との関係」「心の健康」「健康管理・福祉制度・支援策」など多岐にわたります。回答完了までに 1 時間ちかくかかるアンケートであるにも関わらず、1095 名もの HIV 陽性者から回答を得ることができました。

2014 年度にはアンケート結果の集計と分析を行います。調査設計の段階から HIV 陽性者の視点や意見を多く取り入れたことにより、HIV 陽性者のバックグラウンドやニーズについてこれまで以上に多面的に把握できるようになり、HIV 陽性者支援、予防啓発、医療、人権など日本のエイズ対策の今後に大きな影響を与え得ることが期待されます。

http://survey.futures-japan.jp/

http://futures-japan.jp/

学会での発表・登壇

第 72 回日本公衆衛生学会（2013 年 10 月 23 日～25 日）および第 27 回日本エイズ学会（2013 年 11 月 20 日～22 日）において、以下のとおり発表または登壇しました。

また、日本エイズ学会の学会場では JaNP+のブースを出展しました。

＜第 72 回日本公衆衛生学会＞

分類	ポスター発表
演題名	HIV 陽性者のための総合情報サイトの作成プロセス 及びリンクしたリソースの内容分析
演者	矢島嵩

＜第 27 回日本エイズ学会＞

分類	一般演題（口演）　陽性者支援
演題名	「Futures Japan」HIV 陽性者を対象とした調査における 当事者参画の意義と効果に関する考察
演者	高久陽介
分類	シンポジウム（社会）
演題名	地方都市における HIV 陽性者、そのサポートは？　～プライバシー守秘と孤立解消の取り組み、九州・沖縄でのトライアルを通して～
演者	高久陽介（座長）
分類	ランチョンセミナー
演題名	「ホンネで語ろう、毎日の服薬」
演者	高久陽介
分類	公開シンポジウム
演題名	「治療と社会的偏見の解消」
演者	高久陽介
分類	一般演題（ポスター発表）
演題名	「Futures Japan ～HIV 陽性者のための総合情報サイト～」 ―作成の経緯・内容分析―
演者	矢島嵩
分類	一般演題（ポスター発表）
演題名	Talking about SEX プロジェクト
演者	羽鳥潤

研究協力

2013 年度、JaNP+は以下の研究に協力しました。

- 平成 25 年度厚生労働科学研究エイズ対策研究事業「HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究」（研究代表者：白阪琢磨）
- 平成 25 年度厚生労働科学研究エイズ対策研究事業「MSM の HIV 感染対策の企画、実施、評価の体制整備に関する研究」（研究代表者：市川誠一）
- 平成 25 年度厚生労働科学研究エイズ対策研究事業「地域において HIV 陽性者等のメンタルヘルスを支援する研究」（研究代表者：樽井正義）

日本エイズ学会参加支援スカラシップ

HIV の医療には、患者が自ら積極的に参加する先駆的治療の実現が求められます。しかし、学会で示される新たな知見や様々な意見に、HIV 陽性者が触れるきっかけは少ないのが実情です。

JaNP+は他団体との協働により、HIV 陽性者の治療意欲向上と自立ならびに社会参加の促進を趣旨とする「HIV 陽性者参加支援スカラシップ委員会」を設立し、HIV 陽性者の学会参加を支援するスカラシップ（学会参加費補助）を行うことで、全国の HIV 陽性者が学会に参加する際の経済的・地理的・心理的ハードルを下げることで、エイズ対策への当事者の参加を促しています。

地域を越えて当事者と専門家との交流と意見交換を促すとともに、当事者の側から視点や熱望を伝え、また当事者自身も HIV 感染症に関する知見をさらに深め、それぞれの地域での社会活動にも還元されています。

＜スカラシップ委員会の構成団体＞

社会福祉法人はばたき福祉事業団、特定非営利活動法人ぷれいす東京

公益財団法人エイズ予防財団、JaNP+

第27回日本エイズ学会へのHIV陽性者参加支援

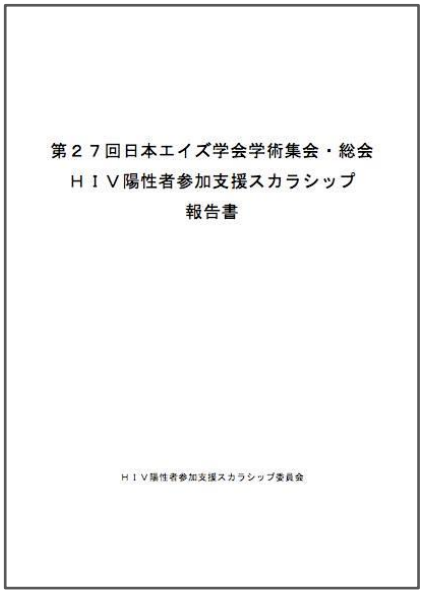
目的	全国の HIV 陽性者 50 名程度（予定）の学術集会参加登録費および交通費・宿泊費（地方在住の場合）を一部負担し、陽性者の学会参加を促進する。
応募資格	・ HIV 陽性者であること。 ・ 第 27 回日本エイズ学会学術集会において開催される公開シンポジウム「治療と社会的偏見の解消」を含む、2 つ以上のプログラムに参加することができること。 ・ 学会終了後に参加レポートを提出すること。
スカラシップ支給額	応募動機等についてスカラシップ委員会で審査の上、在住地域により以下の金額を支給する。 ・ 九州の在住者（沖縄を除く） …… 10,000 円 ・ 中部・近畿・中国・四国地方、沖縄県の在住者 …… 30,000 円 ・ 北海道・東北・関東地方の在住者 …… 50,000 円
応募者数	66 名
支給者数	34 名

支給総額	1,280,000 円 ※　第 27 回日本エイズ学会会長・満屋裕明氏のご厚意により、スカラシップ受給者 34 名分の学会参加登録証（1 人 10,000 円）を無償でご提供いただきました。このため、上記金額には 340,000 円相当の現物支給が含まれます。
後援	厚生労働省　日本エイズ学会　日本製薬工業協会　（順不同）

参加報告書の発行

このスカラシップを通じて第 27 回日本エイズ学会に参加した HIV 陽性者によるレポートをまとめ、報告書 1,000 部を発行しました。報告書は、エイズ治療拠点病院、各都道府県および中核市、エイズ NGO 等に送付しました。また、報告書はスカラシップ委員会の WEB 上でも公開しています。
URL：http://www.janpplus.jp/project/scholarship/

学会で発表された様々な発表や取り組みに対して、HIV 陽性者が感じたリアルな意見を知ることができる内容になっています。


第２７回日本エイズ学会学術集会・総会
ＨＩＶ陽性者参加支援スカラシップ
報告書

ＨＩＶ陽性者参加支援スカラシップ委員会

公開イベント「HIV陽性者による第27回日本エイズ学会　参加報告会」 開催

学会に参加した HIV 陽性者の声をよりリアルに声を伝える場として、参加報告会を開催しました。実際に学会に参加した陽性者 3 名から、それぞれ学会参加を通じての感想や意見を発表しました。

アンケートによれば HIV 陽性者の来場が多く、学会に参加できなかった人、学会での発表内容に関心がある人、翌年のスカラシップ申込を検討している人、自身も学会に参加して他の陽性者がどう感じたのかを聞きたかった人などが多かったようです。

＜開催概要＞

開催日時	2014 年 2 月 16 日（日）　15:00～17:00
場所	ＴＫＰスター貸会議室 お茶の水駅前　カンファレンスルーム１（東京都千代田区）
主催	HIV 陽性者参加支援スカラシップ委員会
内容	１．第 27 回日本エイズ学会参加支援スカラシップ　実施報告 高久陽介（ジャンププラス／エイズ予防財団）

	２．学会参加者による報告　～ＨＩＶ陽性者から見た日本エイズ学会～ スカラシップ受給者　３名 ３．当事者による学会への参加の意義 生島嗣（ぷれいす東京　代表）
来場者数	31 名　（出演者・スタッフ除く）

＜参加者へのアンケートから＞

専門家ではない当事者の視点からの学会への感想が聞けて良かったです。次回以降、機会があれば学会に参加してみたいです。

今回のスカラシップ参加者さんが、何かボランティア等に関わりたい方が多かったというのが印象に残りました。またお話をしていただいた 3 名とも、何か役に立つことを！とガッツがあってステキでした。

いずれも地方在住の方から、ナマの声を聞くことはとても有意義であった。都市と地方、それぞれ HIV 関連機関の連携は必要であり、当事者たちが一歩ずつ Action を行っていくべきだと思った。

確かに専門用語ばかりのセッションは出にくい。本当に何をやっているのかすらわからないから。当事者と専門家共に参加できるプログラムがもっと増えるといいなと思った。

内容からすると、もっと大きい会場で多くの参加者があっても良いはずだと思うのですが…。

もっとたくさんの各方面、特に医療関係者に聞いてもらいたい充実した内容でした。

初参加の方々の感想が聞けて良かったです。今年も多くの方に参加してほしいので、がんばります。リピーターの方にも冷たくしないであげてください。

第28回日本エイズ学会に向けて

次回の第 28 回日本エイズ学会は、2014 年 12 月 3 日～12 月 5 日に大阪で開催されます。同学会でもスカラシップを実施できるよう、社会福祉法人はばたき福祉事業団および特定非営利活動法人ぷれいす東京との協働による準備を始めています。

国際ネットワーク活動

エイズはマラリア、結核と並んで世界三大感染症と呼ばれ、「HIV 陽性者があたりまえに生きることのできる社会」の実現は、日本だけでなく世界の HIV 陽性者にも共通する目的です。

世界的な不況が長引く中、日本のみならず諸外国においてもエイズ対策への資金提供や予算確保は厳しい状況にありますが、こうしたときこそ国と言う枠組みを超えた密接な協力体制を築く必要があります。

この観点から JaNP+では国外の HIV 陽性者や関連団体とのネットワークを重視し、国際会議等への参画も積極的に行っています。

第5回アフリカ開発会議（TICAD V）への参加・協力

アフリカ開発会議（TICAD）は、日本政府が国連、世界銀行等と共催するアフリカの開発をテーマとする国際会議です。これまで、1993 年から 5 年に一度開催されており、第 5 回アフリカ開発会議は 2013 年 6 月 1 日～3 日に横浜で開催されました。

6 月 1 日には、TICAD V の一環として、安倍昭恵内閣総理大臣夫人主催によるシンポジウム「エイズを考える：アフリカと日本の共通課題」が開催され、代表の長谷川がパネリストとして出演しました。

また 6 月 5 日には、アフリカ開発会議の機会にアフリカでの感染症等対策に貢献した人物に対して内閣府より授与される「野口英世アフリカ賞」を受賞した、ウガンダの医師アレックス・G コウティーノ博士ご夫妻が JaNP+事務所に来訪し、メンバー有志と歓談しました。

コウティーノ博士は、世界の HIV 感染者の 7 割を占めると推測されるアフリカにおいて、感染者が治療を受ける機会を増やすための先駆的な活動を行いました。

面談では、日本の HIV 陽性者の現状と課題について伝え、またアフリカでの取り組みについて意見交換を行いました。

Taiwan Lourdes Associationへの訪問・講演

2013 年 9 月 5 日から 9 日にかけて、台湾の HIV 陽性者支援団体 Taiwan Lourdes Association（社団法人台湾露徳協会）からの招待を受け、事務局長の高久が台湾を訪問し、同団体が主催する公開シンポジウムおよび研修会「Positive Gathering」で、それぞれ講演や意見交換を行いました。

「Positive Gathering」は郊外の宿泊研修施設で行われ、台湾全土から100名近くのHIVがバスツアーで集まりました。

治療や社会生活に関する専門家によるセミナーや、社会への働きかけに関する意見交換、交流イベントなど多彩なプログラムが 2 日間にわたって行われました。

UNAIDSランセット委員・安倍昭恵さんとの面談

国際的なエイズ対策のあり方等について議論を行う国連エイズ合同計画（UNAIDS）に設置されたランセット委員会の委員に、首相夫人の安倍昭恵さんが就任しました。これに伴い、外務省からの協力要請を受けてアドバイスを行い、また日本のエイズ NGO との橋渡しの役割を担いました。

安倍昭恵さんは日本国内の HIV 陽性者やエイズに取り組む人々との直接対話を希望し、2013 年 10 月以降、JaNP+のメンバーも新宿二丁目のコミュニティセンターakta や首相官邸などで度重なる意見交換を行いました。

主要国におけるHIV陽性者の入国規制に関する情報提供

HIV 陽性者が抱えている不安の一つに、海外への渡航に際する入国の可否があります。そこで、英語で提供されているウェブサイト“HIV Travel”の情報をもとに、日本と往来の多い主要な国々について和訳し、リストとしてウェブサイトにアップしています。

残念ながら、国によっては法律上の規制と運用の実態が異なる場合もあり、このリストのみをもって入国できるかどうかを判断しにくいこともありますが、少なくとも当事者が渡航を判断する際の参考になるよう、情報提供をしています。また、HIV に対する差別や偏見の現状を知って頂くきっかけにもなるでしょう。

年に数件ですが、HIV 陽性者や医療機関から、こうした入国規制に関するご相談が寄せられています。

国際会議への参加

2014 年 6 月 25 日～28 日、APN+（アジア太平洋地域の HIV 陽性者ネットワーク組織）の会議がタイのバンコクで開催され、高久が参加する予定です。

メディア対応

活動の性格上、JaNP+にはテレビ、新聞、雑誌など様々なメディアからの取材依頼があります。しかし、これまでに行われてきた HIV・エイズに関する報道は、HIV・エイズおよび HIV 陽性者に対する差別や偏見と密接に関わっており、それらは良くも悪くも現在の私たちに大きな影響を及ぼしてきました。

近年では、エイズ・パニックの時代と比べて HIV・エイズに関する報道自体が少なくなっています。マスメディアを通じて大げさに取り上げることが、当事者である私たちにとって必ずしも有益であるとは考えていませんが、マスメディアの影響力は、他の活動が届かない人々にも語りかける機会として無視できないものです。また、取り組み方によっては、私たちのミッションである「HIV 陽性者があたりまえに生きられる社会の実現」にも寄与できると考えています。

このため JaNP+では、これまでの活動を通じた経験を活かしながら、機会をとらえて様々なメディアからの取材依頼に対応しています。

2013年度 実績

2013 年度は、以下の各メディアにおいて、HIV 陽性者の声や JaNP+の活動について取り上げていただきました。下記以外にも電話による取材や、取材申し込みがあったものの放送や掲載等に至らなかったケースが数件あります。

日付	媒体名
2013 年 12 月 3 日	読売新聞（多摩立川地域版）
2013 年 12 月 10 日	山梨日日新聞
2014 年 2 月 12 日	フジテレビ「ニュース JAPAN」

アドボカシー

JaNP+では、HIV 陽性者の権利擁護と行政等への参加・意見反映といった観点から、HIV 陽性者のエイズ対策へのより広範な関与（GIPA：Greater Involvement of PLWHA）を活動の柱としています。

広い意味では、ジャンププラスの活動全体がアドボカシーにつながるものですが、ここでは特に、政府および行政への働きかけや協働についてご報告します。

日本赤十字社への公開質問

2013 年 11 月上旬、献血で採取された血液からエイズウイルスの感染が確認され、その血液が患者 2 名に輸血され感染に至った事例が、テレビや新聞などで大きく報道されました。献血会場では「男性どうしの性的接触があった」などの項目でスクリーニングを行っていますが、昨年のケースでは、この点について「虚偽の申告をした」と発表されており、そのために献血者本人の法的責任にまで言及する大手メディアも複数ありました。また、インターネット上でもゲイや HIV 感染者ら当事者に対する批判的な意見が多く見受けられました。

しかし、2010 年に JaNP+と特定非営利活動法人ぷれいす東京が共同で行った調査によれば、HIV 陽性判明時に医師等から感染経路の心当たりを尋ねられた際に「異性間での性交渉」「わからない」等と答えた人の多くが、実際には「同性間での性交渉だった」と認識しています。性的マイノリティであることをカミングアウトすることが容易ではない社会環境を無視して、一方的に検査目的と思われる当事者を非難するプレス発表のあり方は疑問です。

このため JaNP+では日本赤十字社に対し、2013 年 11 月 28 日付で公開質問を行い、2 月 24 日付で回答がありました。回答結果は WEB サイトにて公開、E-mail や SNS 等で関係者に広くお伝えしました。

行政に対する要望書の提出

東京都に対し「エイズ啓発拠点の充実を求める意見書」を提出し、エイズ啓発拠点事業の有効性と量的な充実をも求めました。

また、厚生労働省および厚生労働大臣に対し、「同性愛者等の HIV に関する相談・支援事業」におけるコミュニティセンター事業が 2015 年度以降も従来通りに継続できるよう、同事業の関係者との連名による要望書を提出しました。

参議院議員選挙に向けた公開質問

2013 年 7 月 21 日に行われた参議院議員選挙に向けて、エイズ対策に関する基本姿勢を問う「公開質問状」を各政党に送付しました。回答結果は WEB サイトにて公開、E-mail や SNS 等で関係者に広くお伝えしました。

＜回答の有無＞

回答あり	自由民主党、民主党、公明党、みんなの党、社会民主党 日本共産党、幸福実現党
回答なし	日本維新の会、生活の党、緑の党、新党大地、みどりの風

その他委員等

前年度に引き続き代表の長谷川が東京都エイズ専門家委員として、また事務局長の高久陽介が東京都エイズ啓発ポスターの審査員として、東京都のエイズ対策に参画しました。

広報・事務局ほか

ニュースレターの発行

ニュースレター第 17 号～第 20 号を制作、発行しました。

ニュースレターは 5000 部を発行し、全国のエイズ治療拠点や NGO、各種会員等に広く送付しています。また、WEB サイト上でも読むことができます。

2013 年度からは企業による広告掲載をいただくことができ、安定的に情報発信を行うことができる体制になりました。今後も引き続き、3 ヶ月毎のペースで発行予定です。

WEBサイトの運営

おもに JaNP+の活動についてお知らせするオフィシャルサイトを適宜更新しています。2013 年度の WEB サイトの更新回数は 39 回でした（軽微な修正等は除く）。

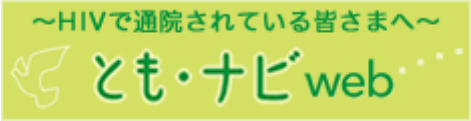
また、WEB サイトからも寄付や賛助会費を決済できるようになりました。

事務局運営

事務局では、外部との窓口対応のほか、各プロジェクトにおける印刷物や資料の発送、イベントの会場手配や備品などの準備、アンケート集計、事務所の管理、会計、NPO 法人関連の事務手続き等を行いました。

とも･ナビweb

特定非営利活動法人ぷれいす東京と共同で、HIV 陽性者のセルフケアを応援するサイト「とも・ナビ web」を制作しました。HIV 診療に携わる専門家らによるセルフマネジメント研究会の監修のもと、HIV に感染していても健やかな自分らしい暮らしを送れるようアドバイスを提供しています。とも・ナビ web は、自分の治療や健康について難しく考えないよう、シンプルなつくりを意識して制作しており、以下の 2 つのコンテンツで構成されています。JaNP+は、セルフチェックを中心に制作を担当しました。



http://www.janpplus.jp/tomonavi/

1．とも・ナビ ch　（動画）
治療と生活に関する基本的なアドバイスを動画で紹介しています。

2．セルフチェック　（チェックシート）
自身の健康状態や生活環境についてチェックすると、回答に応じてアドバイスが表示されます。

寄付・助成

寄付・助成

2013 年度も多くの企業や団体、個人の皆様より寄付と助成をいただきました。おかげさまで、本書でご報告させていただきましたように様々な活動を継続、前進させることができました。

あらためまして、ご支援をいただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

寄付・協賛
鳥居薬品株式会社
ヴィーブヘルスケア株式会社
MSD 株式会社
中外製薬株式会社

※個人の方からのご寄付については、プライバシー保護のためお名前の掲載を控えさせていただきます。

助成事業	対象プログラム
アステラス製薬株式会社 スターライトパートナー（患者会支援）活動	HIV 陽性者交流会 およびピアグループ立ち上げ支援
公益財団法人エイズ予防財団 平成 26 年度助成事業	ワークショップ「Talking about SEX」

Cross Border Cafe

2013 年度より、JaNP+のファンドレイジングと多様な人々の交流を目的としたカフェ・イベント「Cross Border Café」を新たに企画しました。

「男と女」をテーマに行った第 1 回目の Cross Border Café には、118 名の方が来場しました。作家の中村うさぎさんをゲストに迎えたトークショーをはじめ、歌やパフォーマンスを挟みつつ、それぞれに交流を深めました。

＜開催概要＞

日時	2013 年 7 月 6 日（土） 18:00～23:00
会場	Time Out Cafe & Diner Tokyo（恵比寿）
参加要件	どなたでも参加可能
入場料	3,000 円 （学生 2,000 円） ※1 ドリンクつき
トークゲスト	中村うさぎ（作家）
パフォーマンス	Babie-No-Bitch、マダム・ボンジュール・ジャンジ、ずんこ
特設サイト	URL：http://cafecrossborder.wix.com/crossbordercafe

2014 年度は、2014 年 5 月 31 日（土）に第 2 回目を開催予定です。「日本／世界」をテーマに語り合います。歌やパフォーマンスのほか、トークゲストには伊藤聡子さん（公益財団法人日本国際交流センター）、稲場雅紀さん（NPO 法人アフリカ日本協議会）を予定しています。